

ちよつとしい話

～ 信 頼 ～

人間関係について、その信頼はどうなっているのかを考えて見ましょう。主従の関係に於いて、親子の関係に於いて、友達との関係に於いて、仕事の関係に於いて等々、我々はその諸道に於いて様々な人間関係の中に日々の暮らしがあります。ですから我々が行動する、そして対面する人間関係に於いて内面、外面共に深い絆で結ばれ、心身に負荷無く相互関係が保たれてこそ充実した生活が送れると思います。昨今のニュースは老いも若きも自ら死を選ぶ人、死を作る人、人を騙したり、等々まさに此の世はコントロールを失った病的人間の集合体となってしまいました。信頼する人も無く、信頼される事も無く、やがて魂が腐り失念した結果起こる無念の言動なのかとも受け取れますが、しかしそれも一種の精神分裂症とも言えましょう。「1寸の虫にも5分の魂」と言われて来た様に、身体の半分は魂、意地が支配してはいけません。

現代社会に於いて、もはや信頼という言葉は死語に成ってしまったのでしょうか。問題は色々あると思いますが、一つ言える事は今迄に佛との信頼関係について考えた事がありましたでしょうか。当然、各家庭には仏壇と神棚があり、御本尊、御神体をお祀り敬い拝礼し、各人が答礼の際に自分の思いを述べ加護を願い家門の繁栄を祈念されている事と思います。家庭で行われるこの毎日の行為が信心確立の基本に成っております。娑婆はマットウに生きようとすれば必ずストレスが溜まる。故に、心の癒しは佛様に求めるべきでしょう。ですから佛様との関係が最も重要であり、一番深い絆で結ばれていなくては当然だめでしょう。社会生活は常に煩惱との戦いです。今年も残りわずかです。除夜の鐘と共に煩惱を消し、清々として19年は、お地藏様、観音様、阿弥陀様、諸仏の慈悲心にすが縋ってでも住みよい信頼のおける社会を作りましょう。

善入院油掛地藏尊